








別添 1-2 接続点の現地参照点の設定方法

交通調査基本区間の延長を求める際には、「別添 1-1 幹線道路網の抽象化による接続点の設定方法」において抽象化した接続点が、現地で物理的にどの点に位置するかを明確化する必要がある。この点のことを「接続する箇所¹の現地参照点（以下、単に「現地参照点」という。）²」という。基本的には、現地参照点は交差点内の中央の点とする。

以下、(1)～(4)の交差点における現地参照点について具体的に示す。

- (1) 平面交差
- (2) 立体交差
- (3) 上下線で大きく分離
- (4) 統合交差点

参考図の凡例は図 1-25 のとおりである。

	自専道(※1)		一般道
	非幹線道路等(※2)		側道、ランプ等
	道路中心線		中央分離帯
	現地参照点		

※1 自専道は、道路法で自動車専用道路として指定している道路

※2 非幹線道路等は、幹線道路以外の道路及び道路法以外の道路（交通調査本区間を設定しない道路）

図 1-25 参考図の凡例

(1) 平面交差

道路中心線同士の交点をそれぞれの路線の現地参照点とする。

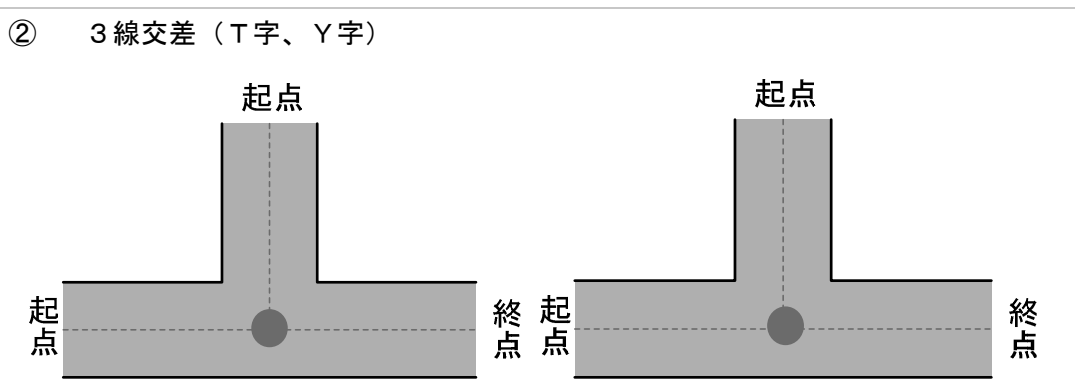
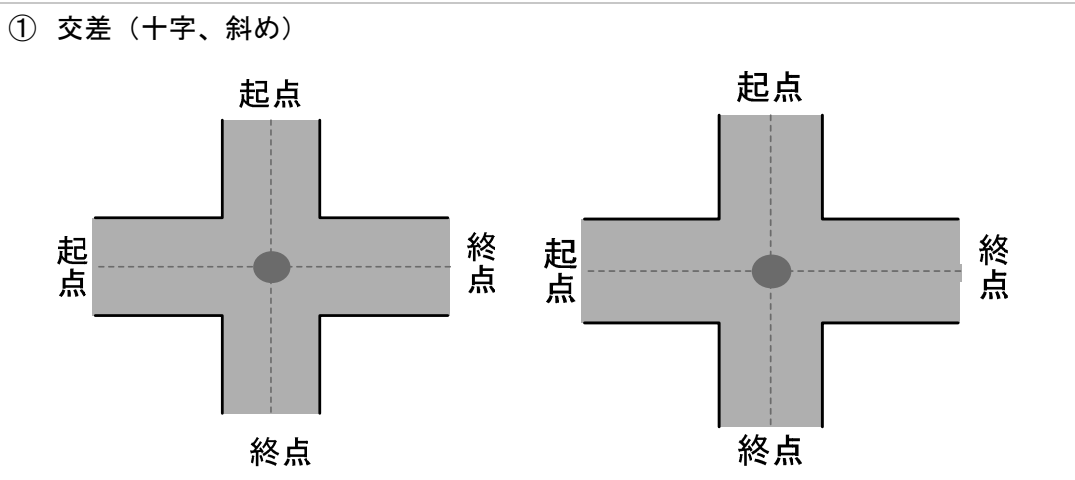


図1-26 平面交差により接続する場合の現地参照点

(2) 立体交差

① 一般道同士の接続

一般道路同士が接続する場合、道路中心線同士の交点をそれぞれの路線の現地参照点とする。

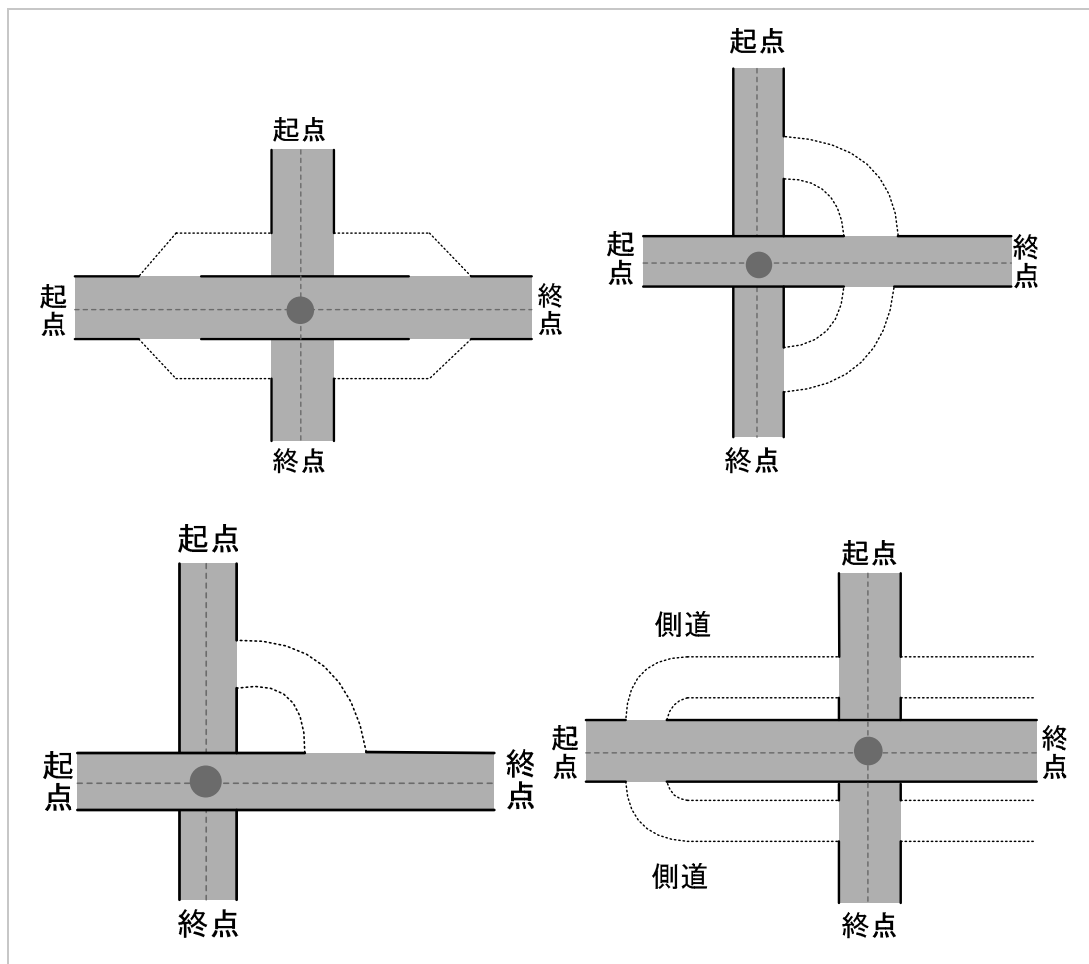


図1-27(1) 立体交差により接続する場合の現地参照点

② 自専道と一般道の接続

自専道と一般道が接続する箇所では、自専道と一般道のそれぞれの路線に現地参照点を設定する。

自専道側の現地参照点は、路線の起点に最も近い分合流部と路線の終点に最も近い分合流部の midpoint に設定する。

一般道側の現地参照点は、ランプ等が平面交差で接続されている場合には、平面交差の現地参照点の設定に従う。ランプ等が分合流により接続されている場合は、自専道側の現地参照点の設定と同様とする。ランプ等が平面交差と分合流の両方により接続されている場合は、平面交差の現地参照点の設定に従う。

なお、自専道側の現地参照点について高速道路会社等が独自に設定している場合には、この限りではない。

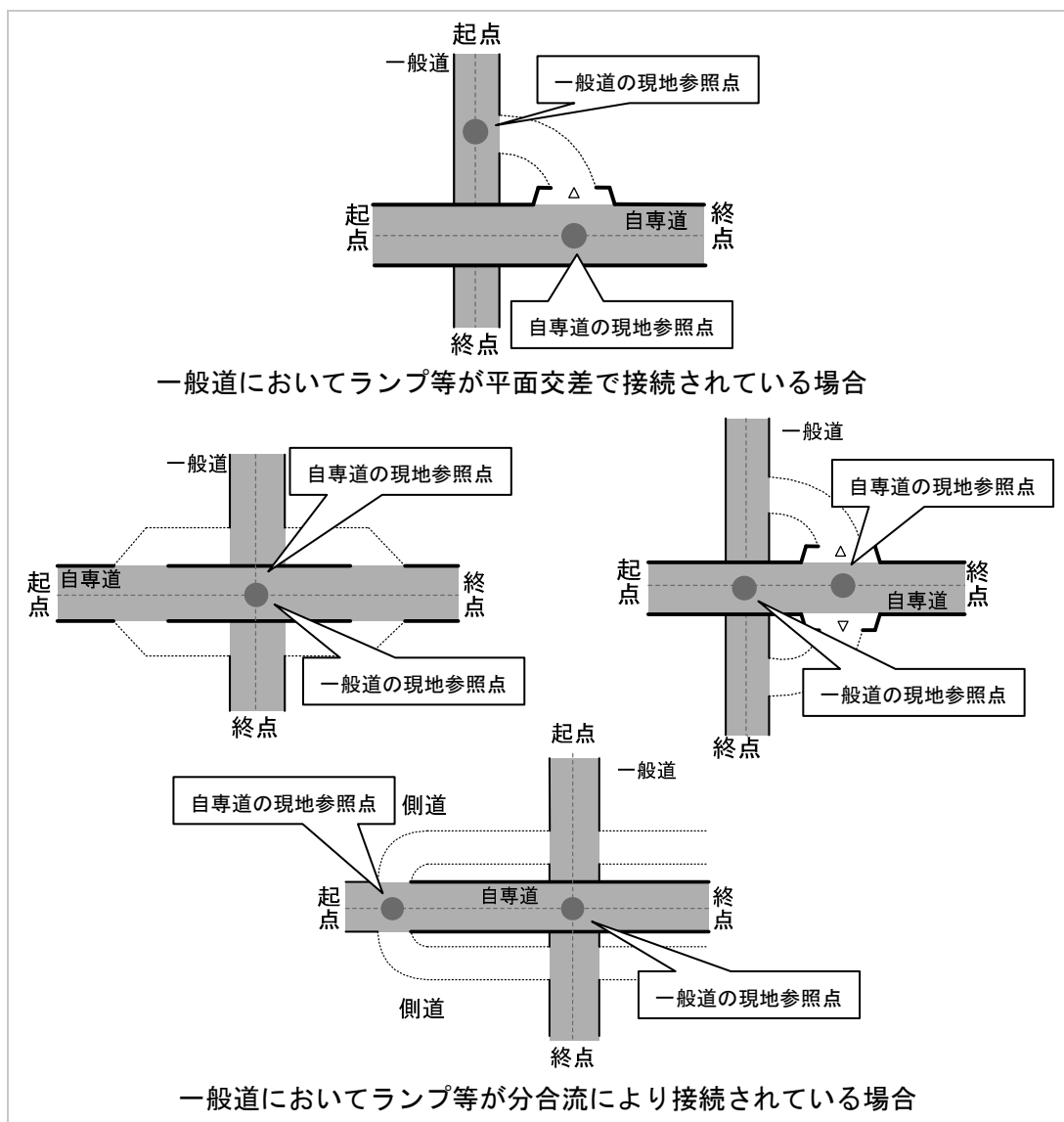
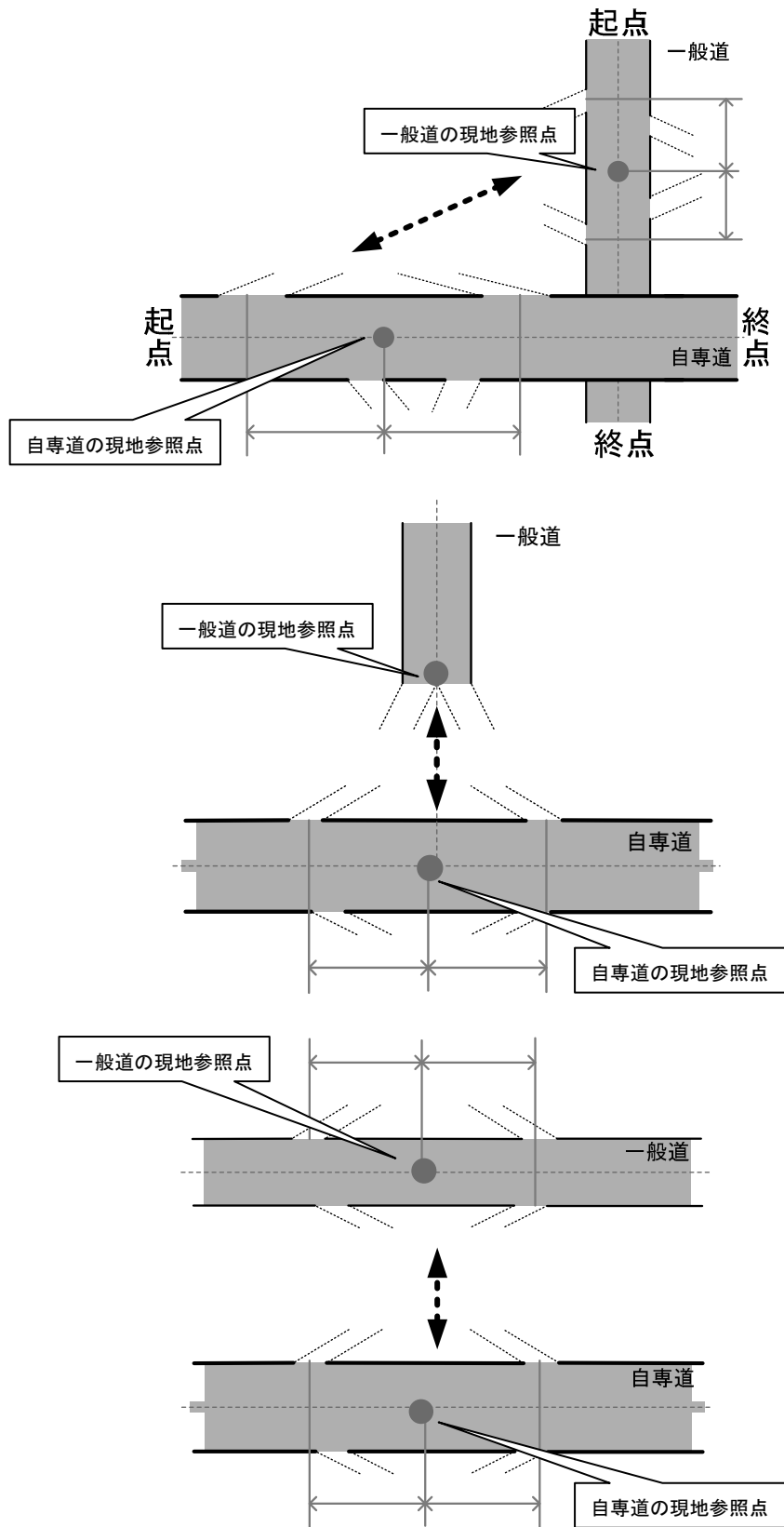


図1-27 (2) 立体交差により接続する場合の現地参照点



一般道においてランプ等が平面交差と分合流の両方により接続されている場合

図 1-27 (3) 立体交差により接続する場合の現地参照点

③ 自専道同士の接続

自専道同士が接続する箇所では、それぞれの路線に現地参照点を設定する。

一般道と自専道の接続する箇所における現地参照点の設定と同様とする。

なお、自専道側の現地参照点について高速道路会社等が独自に設定している場合には、この限りではない。

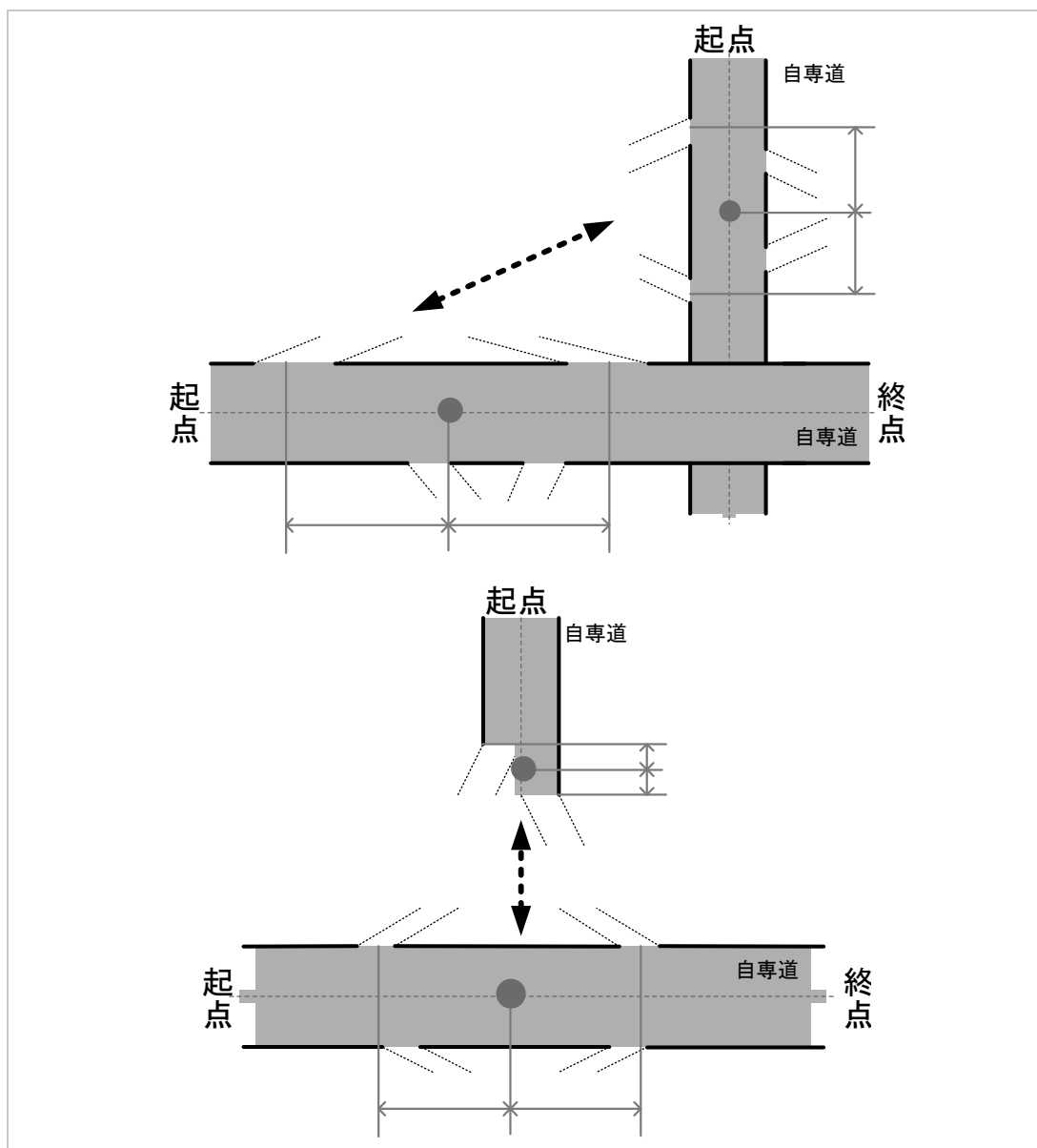
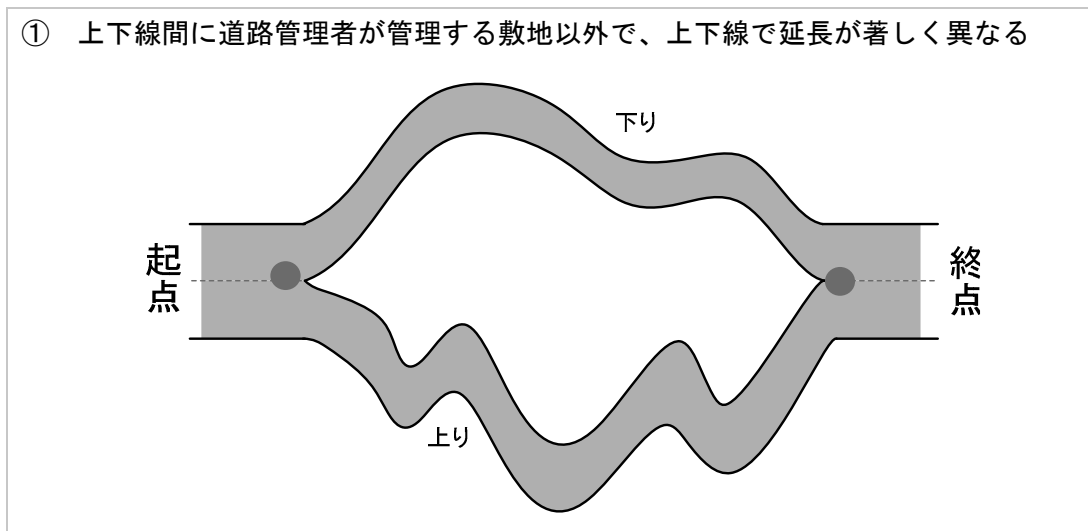


図 1-27 (4) 立体交差により接続する場合の現地参照点

(3) 上下線で大きく分離

上下線が分離する箇所を現地参照点とする。

- ① 上下線間に道路管理者が管理する敷地以外で、上下線で延長が著しく異なる



- ② 上下線間がおおよそ 100m 以上

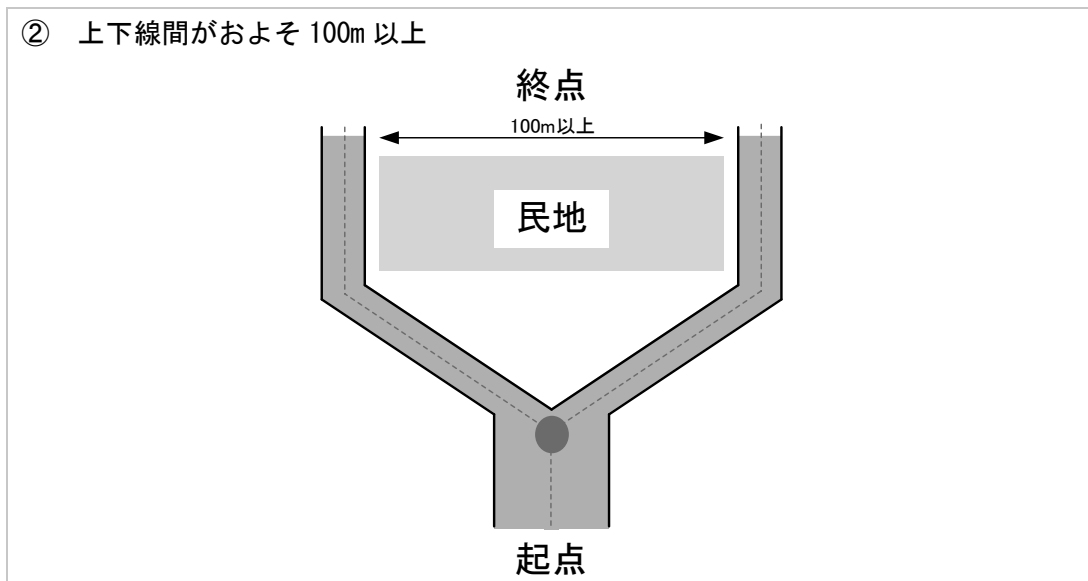


図 1-28 上下線で大きく分離する場合の現地参照点

(4) 統合交差点

統合した交差点では図1-29のとおり複数の現地参照点を設定する。

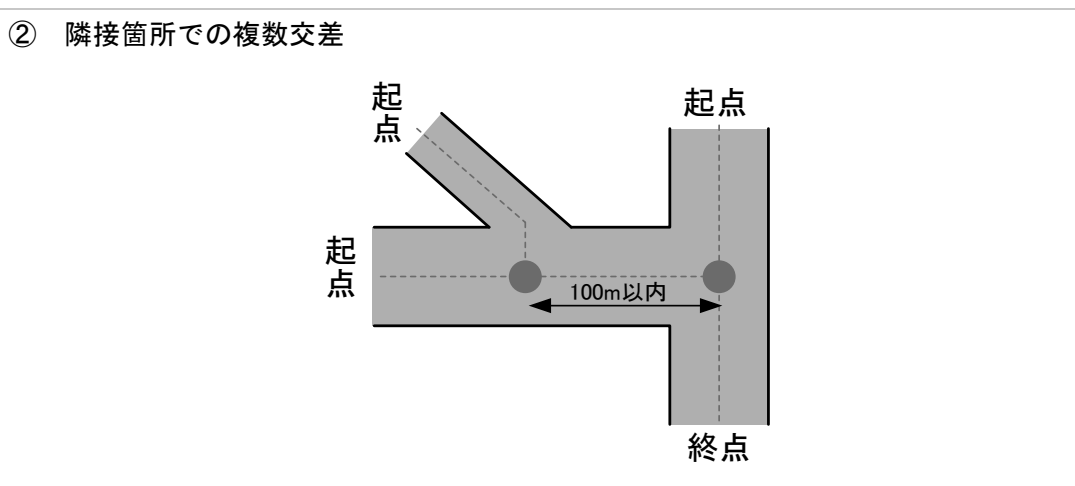
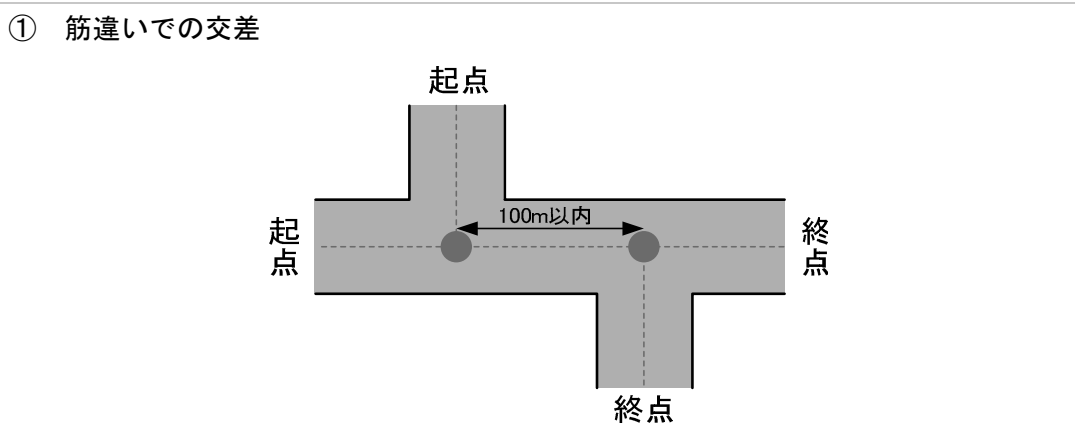


図1-29 統合交差点の場合の現地参照点